

小金湯さくらの森公園観察等の記録

2025年12月5日 樹木医 金田正弘

1. 市民参加による施肥活動の準備 (5月26日)

(イ) 施肥手順の確認



割竹の節抜き



アースオーガによる穴あけ



割竹の設置と施肥



秋9月予定の市民参加による施肥の実施に当り、まず関係者（地域住民、商工会議所、指定管理者、樹木医）による準備作業を実施しました。

竹（モウソウ竹）を半割にして、中の節を抜きました。園内の桜（ソメイヨシノ等）の地際周辺に4ヶ所アースオーガー（穴あけ機）で穴をあけました（深さ40～50cm）。

関係者全員で筒状にした竹を埋設し堆肥等で埋戻しました。以上、施肥一連の手順を確認しました。

(ロ) 桜病害の解説と保護処置



秋本氏の樹病解説



幹の保護塗布



地際の除草

施肥終了後、秋本樹木医（樹病の専門家）による桜類病害の解説がありました（9月のイベントでも市民に向けた解説実施の予定）。幹の胴枯病解説の後、患部の切削り整形、保護剤（トップジンMペースト）の塗布等を実施しました。又、幹の地際周辺に発生する根頭がんしゅ病を確認するため除草をしました。

(ハ) 小金湯さくらの森公園の観察



公園上部から桜類の観察



遅咲きのサトザクラ類の観桜

5月26日の準備会は、新緑の季節でした。園内は、遅咲きのサトザクラ（園芸品種の桜）関山（かんざん）、普賢象（フゲンゾウ）、南殿（ナデン）等が咲いています。準備作業終了後は、それぞれ小金湯さくらの森公園の景観を観察していました。

2. 試験植栽木他の手入れ（7月11日）

(イ) 試験植栽木（着工前及び完成）



着工前



完成



楊貴妃の着工前



完成



一葉の着工前



完成

(ロ) 根系の施肥



施肥資材一式



穴あけ状況



まるやま3号入れ



混合土入れ

(ハ) 除草及び病害等の処置



地際周辺の雑草



アーコレードの胴枯病



枝先に発生したコブアブラムシ



保護剤の塗布

7月11日の小金湯は、すでに暑い気象環境下にありました。公園管理者の除草は、丁寧に行われていました。気になる雑草（スギナ等）があり抜根除草をしました。アーコレードに胴枯病が発生し、切削り後保護剤（トップジンMペースト）を塗布しています。

暑さのためでしょうか神代曙他の枝先にササキコブアブラムシ（枝先の葉が丸まって凸凹状に萎縮する）が発生していました。

(ニ) 5月実施した割竹施肥準備木の観察



施肥後の現況



施肥木の緑葉期



割竹周辺の拡大

春5月ソメイヨシノ周辺に実施した割竹縦穴式土壤改良処置を観察しました。肥料の効果でしょうか濃い緑色になっていました。緑葉期の景観は、良好のように感じました。これで9月イベント向けの準備が整いました。

3. 施肥イベント直前の準備 (9月22日)

9月27日に小金湯さくらの森公園施肥のイベントが実施されます。直前の準備に小金湯を訪れました

(イ) 根頭がんしゅ病他の観察



地際に発生する根頭がんしゅ病



浮根についた傷の処置

園内の品種物桜類の多くに発生する根頭がんしゅ病は、病徴が地際周辺に露出したり土中の根に出たりしています。一部は、根系を掘って調べなければなりません。過年度こぶ状のがんしゅの除去及び土砂の入替えを実施しました。現状は、再発していると言えそうです。今回のイベントでその存在を周知するとともに、がんしゅ撤去の継続した取り組みが必要です。

(ロ) 紅葉しはじめた木々



シンボルツリー (エゾヤマザクラ)



シンボルツリー (クシロヤエ)

一時期樹勢の弱っていたシンボルツリーは、2本共良好に生育しています。横に伸びる枝が大きくなると最高の樹姿になるでしょう。



紅葉はじまりの景観



チシマザクラ紅葉のはじまり

9月23日の小金湯さくらの森公園は、紅葉がはじまったという景観です。特にチシマザクラ、エゾヤマザクラの野生種桜類の紅葉が早いようです。他の広葉樹は、まだ緑色でその対比がきれいに見えました。

4. イベント実施当日（9月27日）



市民による施肥の様子



イベント当日は、良い天気にも恵まれ多くの人達が集まりました。事前の準備もあって順調な進行でソメイヨシノ、エゾヤマザクラの施肥が実施されました。

今回は、最初の施肥作業です。他の多くの桜類は、手つかずの状態です。今後継続した取りくみが望まれます。

準備を実施された指定管理者スタッフの皆さん本当に御苦労様でした。